

令和七年度
奈良金春会演能会

令和七年十月十九日（日）午後十二時半はじめ

奈良春日野国際フォーラム薨
（旧称 奈良県新公会堂）

能楽ホール

奈良市春日野町一〇一 番地
電話（〇七四二）二七二六三〇（代）

仕舞
難波
胡蝶
富士太鼓

吉川恵宥
中田能光
湯本哲明

能
小鍛冶

シテ（前・童子）
ワキ（三條小鍛冶宗近）
ワキツレ（橘道成）
アイ（末社の神）
笛
小鼓
大鼓
太鼓
田中直樹
原陸
原大
井口竜也
赤井啓三
荒木建作
辻雅之
中田弘美

（休憩 二十分）

狂言
延命袋

シテ（主）人
アド太郎冠者
アド（女房）
茂山逸平
鈴木実
茂山千之丞

仕舞
清経
熊野
殺生石

辻井八郎
金春嘉織
金春憲和

能
景清

シテ（悪七兵衛景清）
ツレ（景清の娘人丸）
ワキ（里人）
ワキツレ（人丸の従者）
笛
小鼓
大鼓
金春穂高
金春飛翔
原大
原陸
赤井要佑
荒木建作
辻芳昭



小 鍛 冶 (こかじ)

解 説 中 司 由起子

一条院に仕える橘道成(ワキツレ)が、剣を打つようにという天皇の命令を三條の小鍛冶宗近(ワキ)に伝える。しかし宗近には相槌をする者がおらず、困り果てた宗近は氏神の稲荷明神に参詣する。すると童子(前シテ)が現れ、ヤマトケルが東征で敵の野火に囲まれた時に、草薙の剣で草をなぎ払って敵を討った神話などを語る。童子は宗近に剣を打つ準備をして待つように告げ消え去る。入れ替わりに稲荷明神の末社の神(アイ)が現れ、童子と宗近の出会いなどを語る。宗近が仕度を調べ祈ると、霊狐(後シテ)が出現、宗近の相槌をして剣を打ちあげる。霊狐は「小狐」の銘が刻まれた剣を道成に捧げると、雲に飛び乗り稲荷の峰へと帰って行った。

童子が剣の靈験を語る場面、霊狐と宗近の相槌の様子、霊狐のきびきびとした動きなど見どころの多い作品です。

景

清 (かげきよ)

源平合戦の後、平家の侍悪七兵衛景清は源氏に捕らわれ、日向国宮崎に流されていた。そこへ景清の娘人丸(ツレ)が従者(ワキツレ)を伴い鎌倉からやつてくる。景清(シテ)は盲目の身となり平家語りをして孤独に暮らしていた。景清は娘に気づくが、名乗りもせずに行を立ち去らせる。しかし里人(ワキ)のとりなしで父と娘は対面を果たし、景清は屋島合戦で敵三保の谷と兜の鍔引きをした武勇談を語り、やがて故郷へ帰る娘を見送る。零落した身の上を嘆く景清の声が庵の中から響く場面は、聞きどころ。かつては武勇を誇るも落ちぶれた武将の痛ましさと、親子の深い愛情を描いた作品。面は専用の「景清」。

令和八年度 奈良金春会演能会 予定日

四月十九日(日) 六月二十八日(日) 十月十八日(日)

令和八年度 奈良金春会連合 謡曲・仕舞会 予定日

七月二十六日(日)

四枚綴回数券

二〇、〇〇〇円

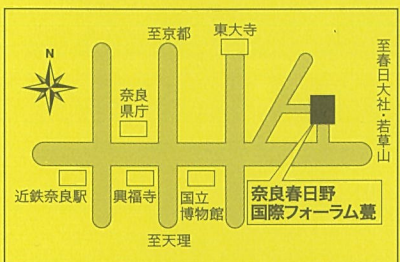
一般一回券

七、〇〇〇円

学生一回券

三、五〇〇円

◎鑑賞券は、奈良春日野
国際フォーラム薨でも
取り扱います。



奈良春日野国際フォーラム薨 能楽ホール

電話(〇七四二)二七一二六三〇(代)

・近鉄「奈良駅」から奈良交通バス市内循環

「大仏前」下車 東へすぐ

・近鉄「奈良駅」から徒歩二〇分

主催 奈良金春会

後援 奈良県

奈良市教育委員会

(公社)金春円満井会

お問合せ 電話

(〇七四二)三三一九七二〇 金春

◎特別に許可された人以外の 写真撮影・録画・録音は お断りします。

◎携帯電話は電源をお切り下さい。また会話・飲食など他のお客様の迷惑になるような行為は御遠慮下さい。

◎奈良春日野国際フォーラム薨の駐車場は 現在一般の方の車の受け入れをしておりません。
車でお越しの方は 他所に駐車場をお求めいただくことになります。

◎満席の場合など 当日会場では入場券を発売しない事があります。又 入場制限する事もあります。

◎都合により、演者、曲目が変更される場合があります。

◎新型コロナウイルス感染症対策として

●マスクの着用は、ご来場されたお客様の任意といたしますが、場内での会話はお控えください。

また、アルコール消毒については、今まで通りお願いいたします。

●入場時発熱状態の方は、入場をご遠慮いただきます。

●会場の定員は五〇〇名ですが、座席数に制限をかける場合があります。